京都産業大学学生有志団体『静原応援隊』
継承者不足で危機に瀕する「静原神社のしめ縄作り」に挑む

京都産業大学 KYOTO SANGYO UNIVERSITY

■学生有志団体『静原応援隊』結成（2015年4月）

京都産業大学近隣の京都市左京区静原地域は、少子高齢化による過疎化と休耕地の増加という問題を抱えている。それを危惧した学生有志が、「静原地域の農作物のブランド化」を目標とする地域の活性化に取り組んだことをきっかけに『静原応援隊』を結成。
2015年には「サギタリウス・チャレンジ※」に認定され、学生有志団体として活動が活発化（2019年5月現在21人が活動）。

※「サギタリウス・チャレンジ」とは・・

学生が「夢」や「目標」にチャレンジする企画に対して、大学が最高50万円の奨励金を給付する京都産業大学オリジナルの学生の夢をサポートする2006年から続く学生支援プログラム。

2015年
サギタリウス・チャレンジ採択

2017年・2018年
コンソーシアム京都・学まちコラボ採択

2018・2019年
左京区補助事業採択

■『静原応援隊』の活動（2015年～）

- 地域の方から200平方メートルの畑を借り、教わりながら学生たちが農作業を開始。『むすびわざ農園』と名づけた。
- 2016年11月には、静原朝市やキャンパス内で、収穫したさつまいもを使ったオリジナルのマドレーヌなどを販売。
- 静原小学校で週3回、学生ボランティアとして授業を補助。また大学天文台ツアーや留学生による英語教室を開催。

■まぼろしの「京都産 大豆」との出会い（2017年5月）

「農作物のブランド化」の取組において、新たな静原ブランドをうみだそうと考え、生産性の悪さや輸入品の影響を理由に今ではほとんど生産されなくなった「京都産 黄大豆」の栽培を開始。
京都といえば豆腐や湯葉が有名だが、原材料である大豆は京都産ではないことが多く、大豆を育て原材料から「京都産」の商品をうみだしたいという思いで栽培を始めた。
2017年秋には大豆を収穫し試行錯誤を経て大豆を使用したコーヒーとクッキーが完成。
大学キャンパスグッズに採用されている。

■しめ縄もち米プロジェクトがスタート（2019年～）

静原の鎮守社「静原神社」の御神木にかかるしめ縄は、地域の方が地域の田んぼでもち米を作り継承してきたが、後継者不足のため大原の藁で作ることを検討されていた。そこで静原応援隊がもち米作りを継承し、秋に収穫した稲穂でしめ縄を作る「しめ縄プロジェクト」を立ち上げた。収穫したもち米は静原神社の春の例祭のお飾りに使い、残ったもち米は静原地域のブランド化推進の商品作りに使用する。

■しめ縄作り（2019年12月22日9時～12時＠静原神社）

静原応援隊の学生が、地域の方の指導を受けながら、秋に収穫した藁を使って「しめ縄作り」を行い、静原神社のしめ縄の取り換えを行う。